

IoT的Googleマップの使い方

ご購入はこちら

土屋 健

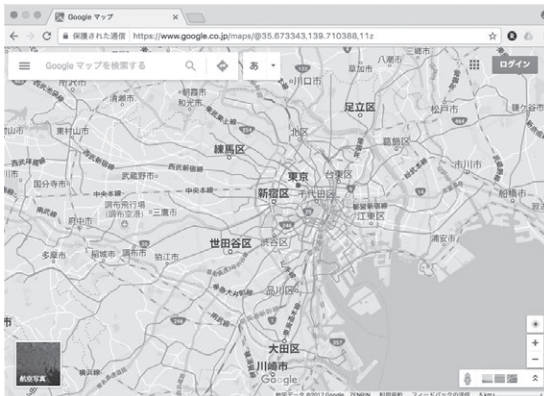


図1 世界の定番GoogleマップはIoTに使える

ここではスマホやPCのブラウザから呼び出せる地図「Googleマップ」について、ラズベリー・パイや小型PCからの応用のヒントを示します。GoogleマップはAPI (Application Programming Interface) が充実しているので、皆さんは次のようなことができるようになるかもしれません。

- 自分専用の地図帳を作る。よく見る場所を表示するように設定したものをスクラップ・ブックのように使うこともできる
- 友達と待ち合わせするときお互いの位置情報を交換し合流ルートを示してくれる
- 不審者の目撃情報を位置情報付きで集めれば、その場所を避けたルート案内が可能
- 買い物リストを用意して、道を歩いているときに

表1 定番地図サービスあれこれ

サービス	URL	API提供	提供元
Yahoo!地図	http://map.yahoo.co.jp/	あり	Yahoo! Japanの提供するサービス
Bing 地図	http://www.bing.com/maps/	あり	マイクロソフトの提供するサービス
オープンストリートマップ	http://www.openstreetmap.org/	あり	フリーの地図データ作成プロジェクトで公開されているサービス
Mapion	http://www.mapion.co.jp/	あり	マピオンの提供するサービス
MapFan	https://mapfan.com/	あり	インプリメントPの提供するサービス
ゼンリン	http://www.its-mo.com/	あり	ゼンリンデータコムが提供するサービス

リストにあるものが購入できる場所があったら知らせてくれる

- 位置情報と資料をまとめて管理
- 自分の位置情報を認識し、自分好みの場所が近くにあったらレコメンドしてくれる
- 自分の足跡情報 (GPSパンくず) を渡して同じ道をたどってきてもらう
- 行ったことのある場所を記録しておくヒートマップ機能で、よく行く場所が確認でき嗜好が分かる
- ルート検索するときに過去によく行ったスポットを通るルートとするなど自分用にカスタマイズされたルート検索ができる
- 標高情報を使って高台を目指したルート検索を行う
- 待ち合わせ場所の名前や住所が分からなくても、場所を写真に撮って位置情報付きで相手に送れば、その写真の撮影位置までのルートを検索できる
- ルート検索時に標高情報を使ってアップダウンのないルートを選ぶ

Googleマップの基礎知識

● スマホに入っている地図アプリの代表格

Googleマップとは、グーグルが提供している地図サービス (<https://www.google.co.jp/maps/>) です。PCやスマートフォンをお持ちであれば、ほとんどの方が使ったことのあるサービスだと思えます (図1)。